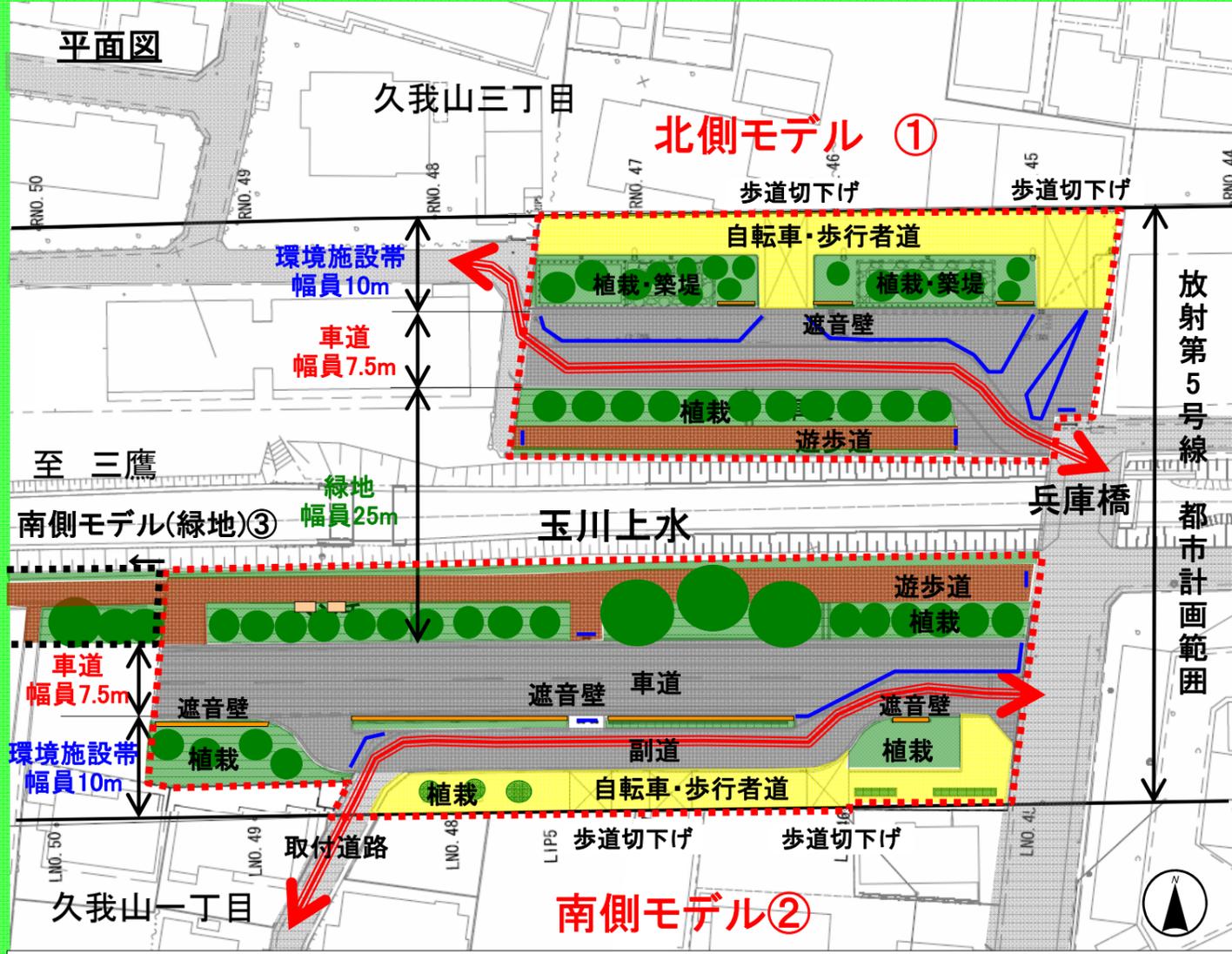


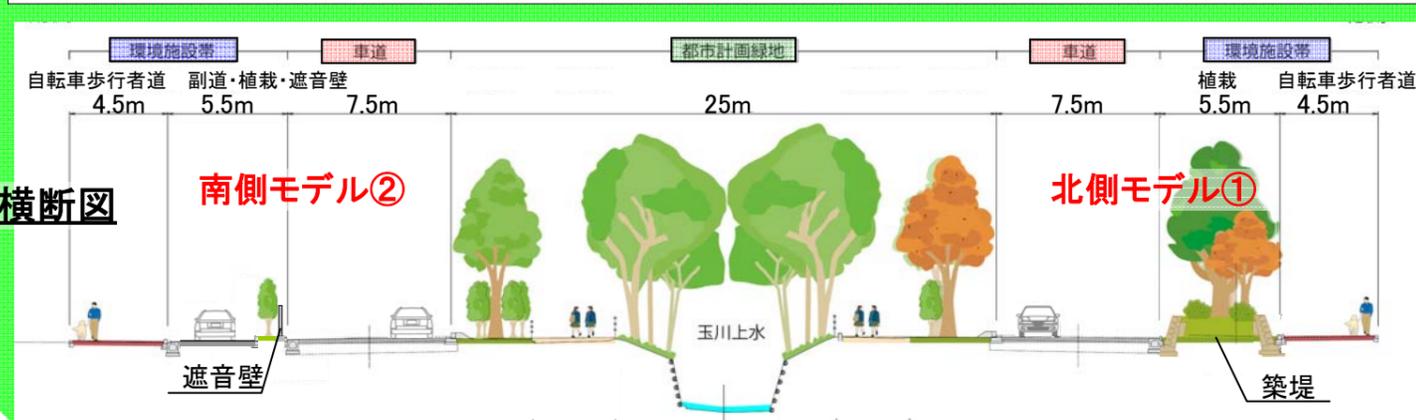


# モデル(幅員60m)整備イメージ図



**凡例**

	モデル整備範囲		自転車・歩行者道		歩道切下げ
	暫定的な車両の走行経路		緑地・植栽		樹木(高木)
	暫定的に車両通行を防ぐパイプ柵		緑地・遊歩道		遮音壁
			車道・副道		現況道路



## ○ 環境施設帯について

環境施設帯とは、幹線道路の沿道の生活環境を保全するための部分で、植栽、自転車・歩行者道、副道等で構成され、次のような役割があります。

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| (ア) 沿道環境の保全               | 騒音、振動の低減                  |
| (イ) 良好な環境の創造              | 植樹帯による景観形成                |
| (ウ) 歩行者・自転車および沿道の自動車の走行空間 | 歩行者、自転車の安全性の確保            |
| (エ) 防災空間                  | 延焼防止や避難場所または避難路防災活動のための空間 |
| (オ) ライフラインの收容空間           | 上下水道管やガス管、電線や電話線の收容空間     |

環境施設帯の整備にあたっては、沿道の方々の放5への出入りを確保しつつ、必要な施設を配置したうえで、可能な限り緑化を図ります。今回のモデルでは、環境施設帯に築堤、遮音壁、副道などの施設を配置し、形態の異なる築堤タイプと副道タイプの2案を玉川上水の南側と北側にそれぞれ整備します。

北側モデル① 築堤タイプ(築堤形式は3パターン) 久我山三丁目に設置

- ・ 構成 植栽、築堤、遮音壁、自転車・歩行者道
- ・ 特徴 沿道からの車の出入りが少ない区域に整備することで、副道タイプに比べて植栽面積を多くすることができます。

南側モデル② 副道タイプ(遮音壁形式は3パターン) 久我山一丁目に設置

- ・ 構成 植栽、遮音壁、副道、自転車・歩行者道
- ・ 特徴 交差する道路または沿道からの車の出入りが多い区域において、宅地から車道への出入り口を集約することで、車道の自動車走行の安全確保、遮音壁の連続性を確保することができます。



築堤の設置例



副道・遮音壁の設置例

## ○ モデル整備に伴う暫定的な車両の通行について

沿道にお住まいの方の車の通行は、今回のモデル整備に伴い、左図の赤い矢印線の道路部分を相互通行することとなります。

放5の整備が完了し、道路が開通した際の車道の通行については、玉川上水北側は上り線、南側は下り線の一方通行になります。また、環境施設帯の副道の通行についても本線車道と同様の一方通行となります。